

data and

学年全体を対象にした進路講演会や各クラスで行われるLHRは、生徒の進路観養成のための貴重な場である。説得力のある資料を活用して、生徒を動かすきっかけとなる取り組みにしたい。

data for academic and career counseling

進路指導に役立つ教育データ集 2

進路講演会 1年生用資料

数学の復習、宿題への取り組み方と成績変動との関係

復習、宿題への取り組み方	成績上昇者 (%)	成績下降者 (%)
授業内容を一通り確認し、宿題もする	21.1	10.4
時間はかかるが宿題はすべてする	47.1	28.6
宿題にもできないものがある	18.7	37.1
宿題や復習はほとんどしない	5.7	13.2

スタディーサポート1年2回(平成9年)より。

家庭学習の習慣を身につけることは成績に大きな影響を与える。宿題をやり遂げることから、家庭学習の習慣を身につけていきたい。

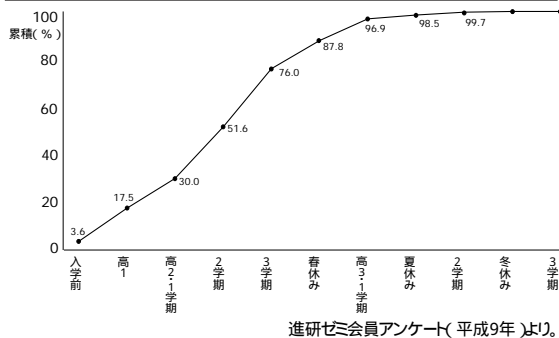
英語の予習への取り組み方と成績変動との関係

予習への取り組み方	成績上昇者 (%)	成績下降者 (%)
本文を訳しておく(または訳を考えておく)	41.2	25.0
不明な語を調べ、文脈での意味を考える	20.4	12.4
本文をノートに写し、授業で書き込むよう準備	8.5	15.9
予習はしない	6.2	19.3

スタディーサポート1年2回(平成9年)より。

単語を調べて本文を書き写すだけでなく、文脈の意味を推察して訳を考えてみる予習スタイルが、授業の理解度を大きく変える。

高校生が志望校について考え始める時期



進研ゼミ会員アンケート(平成9年)より。

高2が終わるまでには大半の生徒が志望校を考え始める。そのためには、職業や学問について自分の興味・関心を明確にしておく必要がある。

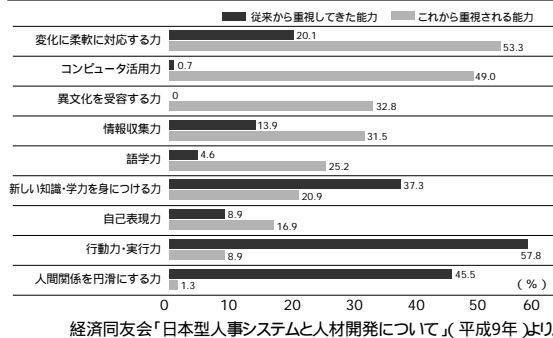
古典の予習の取り組み方と成績変動との関係

予習への取り組み方	成績上昇者 (%)	成績下降者 (%)
本文を写したりするが、内容は調べない	29.5	28.3
わからない箇所を辞書などで調べる	13.8	10.0
辞書などを使い、全文を現代語訳する	21.8	10.1
予習はしない	18.9	31.9

スタディーサポート1年2回(平成9年)より。

古典では本文をただ写すのではなく、辞書などを使って全文を訳し、理解するという予習法が、学力のアップにつながるようだ。

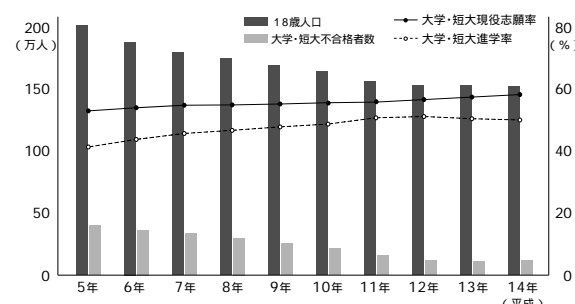
企業が求める人材要件の変化



経済同友会「日本型人事システムと人材開発について」(平成9年)より。

企業の人事担当者に対するこの調査から、状況の変化に対応すると、国際性やコンピュータなど特定の分野に精通した人材が求められていることがわかる。

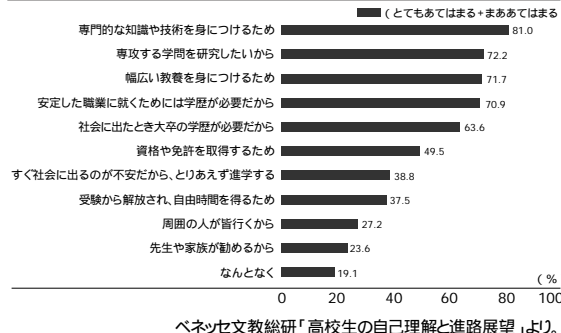
進学環境の予測



ベネッセコーポレーション「高校生の進学環境予測」(平成10年)より。

18歳人口の減少から、大学はますます広き門となる。入れる大学ではなく、入りたい大学を選んでいくことがより求められる時代になってきた。

大学生の進学理由



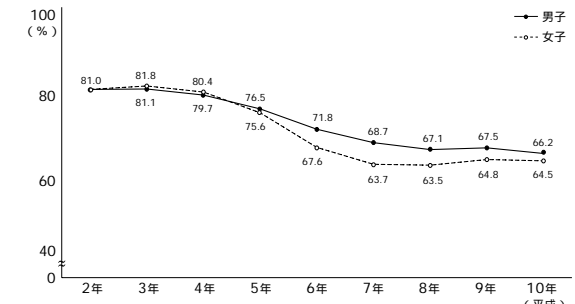
ベネッセ文教総研「高校生の自己理解と進路展望」より。

自分は大学でなにを学び、なにを身につけたいかをしっかり考えて進学している大学生が多いことがわかる。自分の興味や将来像を把握することが求められる。

進学・社会環境から求める高校生像を提示し、1年生への指導で最も重要なテーマの一つに、中学生から高校生への意識の転換が挙げられる。高校では中学校以上に能動的な学習スタイルが求められる、さらに実社会でどう生きていくかという長期的な視野での進路選択が必要であることを、早い段階で生徒に理解させたい。

進路・学習の両面について自分の置かれている現状を分析し、自分で課題、テーマを見出し、それを自ら解決していくことで、生徒はあるべき高校生像に近づいていく。低学年次からの指導の重要性が叫ばれる中、生徒が自分自身を変えていくようなきっかけ作りが、1年生の進路講演会に求められるといえるだろう。

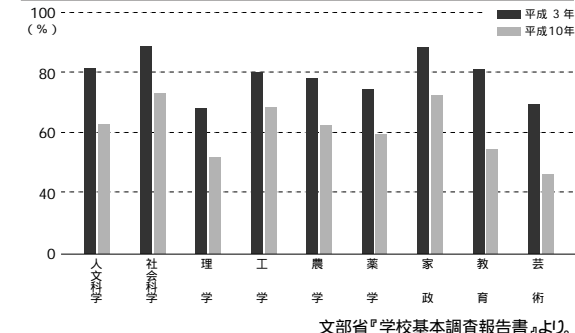
大学卒業者の就職率の推移



文部省『学校基本調査報告書』より。

男女ともに就職率は平成2年から10年の間で約15ポイントも減少した。長引く景気の低迷を背景に、大学生の就職状況はまだまだ非常に厳しい。

学部系統別就職率の推移



文部省『学校基本調査報告書』より。

どの学部系統も低下している。文系、理系にかかわらず就職難の影響を受けての大学院進学率の上昇も背景にあるようだ。

1年生用 進路講演会資料を作るための 四つのポイント

- 1 高校3年間の指導の流れを生徒に理解させる**
各学年・学期での進路指導・学習指導の目標、具体的取り組みを説明すれば、生徒は3年間の高校生活を1本の線としてとらえることができる。スケジュール表のように一覧にして、進路講演会などで配付してみてもいいだろう。
- 2 大学入試と高校入試の違いを伝える**
1年生の段階では、大学入試のしくみについて誤解をしていることが少なくない。むやみに危機感をおおる必要はないが、国公立大と私立大の入試の違いなど、基礎的、進路選択にも関連するものについては説明してもいいだろう。
- 3 学校独自のデータを盛り込む**
生徒を動かす資料作りには、生徒が教師からのメッセージを自分の問題に引きつけて考えられる工夫が欲しい。自校の卒業生の学習状況調査、進路希望調査など、生徒が自分に置き換えて考えられるデータを盛り込んでほしいだろう。
- 4 生徒が参加できるしかけて理解度を測る**
進路講演会の感想を生徒に書かせてみる欄を資料中に作ってはどうか。教師の説明だけになりがちな講演会に生徒の作業を盛り込めば、生徒の講演会参加の姿勢も変わる。また、それぞれの理解度を見る材料としても利用できる。